

ガラス固化設備の安定運転条件の検討について

アクティブ試験 第4ステップでは、初めて高レベル廃液等を用いて、高レベル廃液ガラス固化設備のガラス溶融炉（A系列）における運転性能や処理能力等の確認を行った結果、所要の性能の確認はできたものの、白金族元素の影響を考慮し、管理された運転状態で維持されることについては確認出来なかったことなどを「高レベル廃液ガラス固化設備第4ステップ試験状況報告」として2月4日に報告した。

当社報告に対し、原子力安全・保安院から、

- ① ガラス溶融炉の点検及び内部残留物に関する分析等が実施された上で、ガラス溶融炉運転性能試験等を再開するための運転方法について具体化を図ること。
 - ② 高レベル廃液ガラス固化設備に係る使用前検査（処理能力に関する性能検査）を実施する前に、再開後のガラス溶融炉運転性能確認試験等の結果について報告すること。の指示を受け、現在まで第5ステップにおけるガラス溶融炉の運転再開に向けて必要となる①に対する報告を行うための検討を行ってきた。 (検討の流れは、右図参照)
- 検討においては、アクティブ試験で得られたデータの評価・分析に加え、アクティブ試験を開始する前の先行施設からの設計導入、導入した技術の確認といったガラス固化設備の開発、試験等の経緯についても取り纏めてきている。

また、検討に際しては以下に示す検討体制を整え、実施してきている。

